

平成29年4月3日、市の辞令交付式が行われました。式には新規採用職員のほか、昇任した職員が参加。その際の市長あいさつを紹介します。

新規採用職員のみなさん、ご縁あって入庁いただき、ありがとうございます。また、昇任されたみなさんは、志を新たに頑張っていたきたいと思います。



ここにいる皆さんは職員新規採用試験に合格した訳ですが、試験で私が重視したのは、笑顔があり、あいさつができる人かどうかです。職場は市役所本庁舎ではなく、長久手市全域、21.55平方キロメートルです。そこでは市民の方々が笑顔と挨拶を厳しく実践して仕事をしており、そして得たお金から税金を納めていただいています。そんな税金をいただくのですから、市民の方には笑顔で挨拶をしっかりしないといけません。新規採用職員に限らず職員全員のことですが、庁舎内で仕事するだけでなく、現場へ出て挨拶してほしいと思います。

それと、いつもお話しすることですが、このまちはつい50年前は人口が7,500人でした。それがどんどんと増えていき、隣に誰が住んでいるのかもわからない「赤の他人村のような状態」です。また、全国的には、不登校・引きこもり・いじめ・虐待・孤立死・介護殺人など、非常に複雑で解決困難な問題が多く発生しています。こういった問題は、同じ原因で発生し、同じ解決策がある訳ではありません。一件一件違った原因で起きるため、違った解決策が必要です。こういった問題に対応していくには、行政はどうしたら良いのでしょうか。今までの行政は、公平で、平等で、縦割りです。画一的な物事を効率的に処理するには適していますが、一件一件違った状況で起きる問題に対応するのは、行政の限界があります。縦割りの問題をどのように解消したらよいのでしょうか。行政で対応できないことに、地域や市民の力を借りるにはどうすれば良いのでしょうか。

解決の糸口になればと考え、この4月から市が取り組むことを3つほど簡単に紹介します。1つ目は、縦割り問題の解消を進めるため、各部の次長同士の横のつながりを作り、横の連携を強化していきます。2つ目は、市民同士顔が見える小さな単位で

コミュニティを作っていくことです。そして3つ目は、総合計画や自治基本条例などの計画づくりです。これらは行政やコンサルタント会社が主導で作るのではなく、大勢の市民に参加していただいて作ります。様々な人が参加すると、様々な意見が出るため、まとめることは困難でしょうが、赤の他人だった市民同士が集まって知り合いになるための土壌ができあがります。言ってみれば合コンみたいなものです。計画を作る前に、まず先につながりを作ることが大切なのです。

本市でも人口減少が始まる 2050 年に向けて、縦割り解消や市民主体のまちづくりについて、今から取り組まなければなりません。これは法定受託事務ではありませんので、職員はひたすら悩んで、考え抜いて進めて行く必要があります。それが、これからの市の仕事なのです。